2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　株式会社アルファポリス　　上場取引所　東
コード番号　　9467　　ＵＲＬ　https://www.alphapolis.co.jp/company/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）梶本 雄介
問合せ先責任者　（役職名）取締役兼管理本部本部長　　（氏名）大久保 明道　　ＴＥＬ　03-6277-0123

半期報告書提出予定日　　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有 （機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	9,100	13.9	1,808	6.6	1,844	7.5	1,225	19.0
2026年３月期中間期	7,989	－	1,695	－	1,716	－	1,029	－

（注）包括利益　2027年３月期中間期　1,225百万円（19.0%）　2026年３月期中間期　1,029百万円（－%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	42.17	－
2026年３月期中間期	35.43	－

（注）１．潜在株式調整後１株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
２．2026年３月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、2026年３月期中間期の対前年中間期増減率は記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	20,044	16,146	80.6
2026年３月期	19,953	15,617	78.3

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　16,146百万円　2026年３月期　15,617百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	24.00	24.00
2027年３月期	－	0.00			
2027年３月期（予想）			－	27.00	27.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,500	11.4	3,700	7.0	3,740	6.5	2,560	10.5	88.09

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	29,062,200株	2026年３月期	29,062,200株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	1,026株	2026年３月期	1,026株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	29,061,174株	2026年３月期中間期	29,061,204株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料４ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 10
（継続企業の前提に関する注記） …… 10
（企業結合等関係） …… 10

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間（2026年４月１日から2026年９月30日まで）のわが国経済は、各種政策効果等により緩やかな回復基調にあるものの、地政学リスクや金融市場の変動等から、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの出版事業が属する出版業界におきましては、紙の出版物の市場は厳しい状況が続いているものの、一方で電子出版の市場は堅調な成長を続けております。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2026年上半期（１月から６月まで）の紙と電子を合算した推定販売金額は前年同期比1.3％減の7,664億円となり、その内訳は、紙の出版物については同3.1％減の4,797億円、電子出版については同2.0％増の2,867億円となっております。

また、当社グループのアニメ事業が属するアニメ産業におきましては、国内市場が堅調に推移していることに加え、海外での配信需要の拡大やライセンスビジネスの好調により、海外市場が全体の成長を大きく牽引しております。一般社団法人日本動画協会が発表した「アニメ産業レポート2025」によると、2024年のアニメ産業市場は前年比114.8％（前年比4,942億円増）の３兆8,407億円となり、史上最高値を更新しております。

こうした環境の中、当社グループは、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントの創造を目指し、自社投稿サイト上で人気の高い小説・漫画等のコンテンツを書籍化し、さらにアニメ化へとメディア展開する事業を主軸として取り組んでまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は9,100,894千円（前年同期比13.9％増）、営業利益は1,808,483千円（同6.6％増）、経常利益は1,844,231千円（同7.5％増）、親会社株主に帰属する中間純利益は1,225,623千円（同19.0％増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当中間連結会計期間より、アニメビジネスの本格拡大に向けたグループ管理体制の最適化のため、報告セグメントの区分方法を見直しております。従来「出版事業」及び「アニメ制作事業」の２区分としておりましたが、「出版事業」に含まれていた自社IPのアニメ化事業と「アニメ制作事業」を統合し、新たに「出版事業」及び「アニメ事業」の２区分へ変更いたしました。以下の前年同期比較につきましては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

（出版事業）

当セグメントにおいては、当社が運営する小説・漫画等の投稿サイトに投稿されたコンテンツを編集・出版し、全国書店や電子書店等で販売する事業を主に行っております。

当中間連結会計期間における出版事業の書籍ジャンル別の概況は次のとおりであります。

① ライトノベル

当中間連結会計期間の刊行点数は163点（前年同期比15点減）となりました。

各書籍の売れ行きにつきましては、『継母の心得』『いずれ最強の錬金術師？』等の人気シリーズ続刊や、電子書籍における女性向け小説が好調に推移し、当ジャンルの売上を牽引いたしました。

② 漫画

当中間連結会計期間の刊行点数は121点（前年同期比15点増）となりました。

各書籍の売れ行きにつきましては、2027年にアニメ放送予定の『ゲートSEASON2』や『転移先は薬師が少ない世界でした』等の人気シリーズの続刊が好調に推移いたしました。また、『義弟を虐げて殺される運命の悪役令嬢は何故か彼に溺愛される』が刊行後即重版となる大ヒットを記録する等、売上を大きく牽引いたしました。

③ 文庫

当中間連結会計期間の刊行点数は92点（前年同期比13点減）となりました。

「キャラ文芸」「ライト文芸」「青春小説」等の様々なジャンルにおいて毎月実施するWebコンテンツ大賞の受賞作の中から優秀な作品を複数刊行する等、取り扱いジャンルの多角化・拡大に注力してまいりました。

④ その他

当中間連結会計期間の刊行点数は12点（前年同期比10点増）となりました。

「ホラー小説」「ビジネス書」「絵本」等を刊行する等、更なる業績拡大の観点から、特定ジャンルに依存しない体制構築を目的とし、新規ジャンルの開拓・強化に努めてまいりました。

以上の活動の結果、当中間連結会計期間の出版事業の売上高は7,709,616千円（前年同期比1.3%増）、セグメント利益は2,476,563千円（同0.9%減）となりました。

（アニメ事業）

当セグメントにおいては、自社IPのアニメ製作を目的とした製作委員会への出資による分配金の受領や各種権利の収益化に加え、テレビ放送用や動画配信用のアニメーション等の映像制作サービスの提供を行っております。

当中間連結会計期間においては、『自称悪役令嬢な婚約者の観察記録。』『最強の職業は勇者でも賢者でもなく鑑定士（仮）らしいですよ？』のTVアニメ放映や動画配信に伴う製作委員会の権利収入等が売上を牽引いたしました。また、子会社におけるアニメ受注制作収入も堅調に推移し、売上の底上げに貢献いたしました。

以上の活動の結果、当中間連結会計期間のアニメ事業の売上高は1,391,278千円（前年同期比264.1%増）、セグメント利益は172,714千円（前年同期はセグメント損失44,770千円）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当中間連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ130,623千円減少し、16,971,727千円となりました。これは主に、売掛金及び契約資産が増加（前連結会計年度末比142,411千円増）した一方で、現金及び預金が減少（同182,478千円減）したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ221,378千円増加し、3,072,337千円となりました。これは主に、無形固定資産が減少（同79,116千円減）した一方で、投資その他の資産が増加（同308,039千円増）したことによるものであります。

（負債）

当中間連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ413,064千円減少し、3,826,270千円となりました。これは主に、未払金が減少（前連結会計年度末比155,415千円減）したこと及び返金負債が減少（同82,102千円減）したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ24,337千円減少し、71,747千円となりました。これは主に、長期借入金が減少（同18,330千円減）したことによるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ528,155千円増加し、16,146,046千円となりました。これは、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により利益剰余金が1,225,623千円増加した一方で、剰余金の配当により利益剰余金が697,468千円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ182,498千円減少し、11,579,344千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは931,489千円の収入（前年同期は609,728千円の収入）となりました。主な増加要因は、税金等調整前中間純利益の計上によるものであります。また、主な減少要因は、法人税等の支払及び売上債権の増加によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは393,293千円の支出（前年同期は1,080,832千円の支出）となりました。主な減少要因は、出資金の払込による支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは720,694千円の支出（前年同期は421,823千円の支出）となりました。主な減少要因は、配当金の支払によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の連結業績予想につきましては、2026年５月15日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、連結業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,786,901	11,604,423
売掛金及び契約資産	4,087,721	4,230,132
製品	446,828	428,724
仕掛品	644,035	610,245
その他	136,864	98,200
流動資産合計	17,102,350	16,971,727
固定資産		
有形固定資産	385,645	378,100
無形固定資産		
のれん	1,382,347	1,310,067
その他	50,722	43,886
無形固定資産合計	1,433,069	1,353,953
投資その他の資産	1,032,244	1,340,283
固定資産合計	2,850,959	3,072,337
資産合計	19,953,310	20,044,064
負債の部		
流動負債		
買掛金	72,734	49,484
１年内返済予定の長期借入金	36,660	36,660
未払金	1,568,685	1,413,270
未払法人税等	651,433	657,698
賞与引当金	113,308	108,573
投稿インセンティブ引当金	19,227	23,357
返金負債	481,835	399,733
その他	1,295,448	1,137,492
流動負債合計	4,239,334	3,826,270
固定負債		
長期借入金	71,951	53,621
繰延税金負債	6,301	5,174
その他	17,831	12,952
固定負債合計	96,084	71,747
負債合計	4,335,418	3,898,018
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	13,901,129	14,429,283
自己株式	△886	△886
株主資本合計	15,617,891	16,146,046
純資産合計	15,617,891	16,146,046
負債純資産合計	19,953,310	20,044,064

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	7,989,168	9,100,894
売上原価	1,868,777	2,763,730
売上総利益	6,120,391	6,337,163
販売費及び一般管理費	4,424,652	4,528,680
営業利益	1,695,739	1,808,483
営業外収益		
受取利息	9,181	29,981
前払式支払手段失効益	4,753	4,998
為替差益	7,131	－
その他	－	4,296
営業外収益合計	21,065	39,276
営業外費用		
支払利息	269	961
為替差損	－	2,566
その他	181	－
営業外費用合計	451	3,528
経常利益	1,716,353	1,844,231
税金等調整前中間純利益	1,716,353	1,844,231
法人税等	686,732	618,608
中間純利益	1,029,621	1,225,623
非支配株主に帰属する中間純利益	－	－
親会社株主に帰属する中間純利益	1,029,621	1,225,623

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	1,029,621	1,225,623
中間包括利益	1,029,621	1,225,623
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	1,029,621	1,225,623
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,716,353	1,844,231
減価償却費	18,240	80,642
のれん償却額	－	72,280
賞与引当金の増減額（△は減少）	△9,096	△4,735
投稿インセンティブ引当金の増減額（△は減少）	3,561	4,130
返金負債の増減額（△は減少）	△12,042	△82,102
受取利息及び受取配当金	△9,181	△29,983
支払利息	269	961
売上債権の増減額（△は増加）	△287,552	△142,411
棚卸資産の増減額（△は増加）	△65,465	51,893
仕入債務の増減額（△は減少）	11,223	△21,675
未払金の増減額（△は減少）	297,160	△129,879
その他	△234,953	△128,518
小計	1,428,518	1,514,834
利息及び配当金の受取額	9,181	29,945
利息の支払額	△269	△961
法人税等の支払額	△827,701	△612,328
営業活動によるキャッシュ・フロー	609,728	931,489
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,014	△14,662
無形固定資産の取得による支出	△57,000	－
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△956,510	－
出資金の払込による支出	△134,855	△358,919
出資金の回収による収入	69,546	34,092
敷金及び保証金の差入による支出	－	△45,262
保険積立金の積立による支出	－	△420
短期貸付金の回収による収入	－	8,280
長期貸付けによる支出	－	△16,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,080,832	△393,293
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△13,326	△18,330
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,585	△4,896
自己株式の取得による支出	△54	－
配当金の支払額	△406,857	△697,468
財務活動によるキャッシュ・フロー	△421,823	△720,694
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△892,927	△182,498
現金及び現金同等物の期首残高	11,567,271	11,761,843
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,674,343	11,579,344

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		合計	調整額	中間連結損益計算書計上額（注）
	出版事業	アニメ事業			
売上高					
外部顧客への売上高	7,607,003	382,164	7,989,168	－	7,989,168
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	7,607,003	382,164	7,989,168	－	7,989,168
セグメント利益又は損失（△）	2,499,390	△44,770	2,454,620	△758,880	1,695,739

（注）１．セグメント利益又は損失（△）の調整額△758,880千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益又は損失（△）の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

前中間連結会計期間において、株式会社WHITE FOXの全株式を取得し、連結の範囲に含めております。これに伴い、「アニメ事業」においてのれんを計上しております。当該事象によるのれんの増加額は1,265,067千円であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		合計	調整額	中間連結損益計算書計上額（注）
	出版事業	アニメ事業			
売上高					
外部顧客への売上高	7,709,616	1,391,278	9,100,894	－	9,100,894
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	7,709,616	1,391,278	9,100,894	－	9,100,894
セグメント利益	2,476,563	172,714	2,649,277	△840,794	1,808,483

（注）１．セグメント利益の調整額△840,794千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、アニメビジネスの本格拡大に向けたグループ管理体制の最適化のため、報告セグメントの区分方法を見直し、「出版事業」に含まれていた自社IPのアニメ化事業と「アニメ制作事業」を統合

し、新たに「出版事業」及び「アニメ事業」の２区分へ変更いたしました。
　なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
　該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）
該当事項はありません。

（企業結合等関係）
（企業結合に係る暫定的な会計処理の確定）
　2026年２月13日に行われたNIAアニメーション株式会社との企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っておりましたが、当中間連結会計期間にて確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴う金額の変動はありません。